

令和4年12月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年12月26日（月）13時00分～13時45分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>読売新聞、山形新聞、YBC、SAY、河北新報、NHK

<市>市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 自ら提案された条例通りであれば、来年12月21日が市長の任期満了日となります。2期目は大半がコロナ対応に忙殺され、様々お考えになるところかと思いますが、現時点で残り任期1年の間にぜひとも達成したいこと、力を入れていきたいことを教えてください。

(2) 市立病院の病院長の安否が気遣われます。三友堂病院との協議や1年後の開院へ向けて影響はないですか。今後の対応についてお聞きします。

(3) ウクライナからの避難民受け入れについて、前回会見の動きなど現状をお聞きします

(4) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度12月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに市長からスノーアクティビティ事業に関する情報発信があります。その後、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

エンジョイ米沢スノーアクティビティということで、本市には3つのスキー場があり、米沢エリアスキー場協議会を組織しています。ようやく雪が降り、先週土曜日に小野川温泉スキー場の雪山開きがあり、次の日からオープンもできました。3つのスキー場で使用できるプレミアムクーポンということで、1シート4,000円分を2,000円で販売するもので、多くの方にご利用いただきたく取り組んでいます。販売期間は令和4年12月24日(土)から令和5年3月12日(日)で、使用期限は令和5年3月12

日(日)までです。クーポン券4枚のうち3枚は券を購入したスキー場でのみ利用可能で、残り1枚はそれ以外のスキー場で利用可能です。多くの方にご利用いただき、冬のスキー場の賑わいを創り出していきたいと思います。スノーアクティビティ事業に関する情報発信は以上です。

○市長

今回のご質問は3点ありました。

まず1点目は、「自ら提案された条例通りであれば、来年12月21日が市長の任期満了日となります。2期目は大半がコロナ対応に忙殺され、様々お考えになるところかと思いますが、現時点で残り任期1年の間にぜひとも達成したいこと、力を入れていきたいことを教えてください。」という内容です。

2期7年の中で、就任前に懸案となっていた市立病院の改築、小中学校の統廃合、適正配置、適正規模などは今のところ順調に計画通り進んでいます。

もう1つの大きな課題であった財政再建も、大規模な建設事業と並行しながら改善に向けて取り組んできました。これから先に予定している施設もあり安心してはいたられません、健全な財政運営を進めています。

その他ハード面の整備として、市庁舎の建て替え、屋内遊戯施設の建設、コミセンの改築、また、現在整備を進めている米沢駅舎のコワーキング施設の建設など、お陰様で順調に進めてこられたと思います。これから新たな建設は厳しいと思いますが、現在計画しているものをしっかりと作り上げることに重きを置いていきます。

また、就任以来ソフト面の事業も進めてきました。1つは健康長寿日本一を目指す取り組み、もう1つは米沢ブランド戦略です。行政の大きな役割である、市民の健康・命をどのように守っていくかということで健康長寿日本一を進めてきました。ブランド戦略についても、現在本市が持っている地域資源などの良いものをいかに発信していくかが課題だと思しますので、しっかりと取り組んでいきます。

今年は残念なことに、コロナの影響で最上紅花が世界農業遺産に認定されるころまでにはいきませんでした。来年はおそらく認定されるだろうという話を聞いています。世界農業遺産に認定されるために、生産だけでなく加工面においても、やっぱり米沢だなと言っていただけのように、紅花全体の取り組みを進めていきます。お陰様で生産も増やしていただけると聞いています。加工面においても、紅花染めも新たに取り組んでいただいていますし、今年タペストリーをいただいた刺し子も新たな製品作りに取り組んでいただいているようです。

食べ物関係においても、食肉公社やお菓子屋さん、また料理家の皆さんによって紅花を活用した食べ物が出てきています。このような取り組みに力を注いで紅花製品を作り出し、栽培だけでなく、総合的に世界農業遺産としての紅花に米沢が先進的に取り組んでいると県外でも評価をいただけるように取り組んでいきます。

また、本市はSDGs未来都市に選定されています。それを構成する産業・社会・環境の3つの分野それぞれに力を入れ、整備し磨き上げていきますが、その中心にくる

のが人材の育成です。現在進行しているデジタル化・AIなどの新たな時代に向けて、しっかりと人材を活かしていく、活用していくために、SDGsの3つの輪が重なる部分に人材育成を置いておりますので、それぞれの分野で人材の育成にしっかりと取り組んでいきます。特に現在、次代を担う若い世代が様々な地域おこしや地域の活性化、また事業も含めて取り組みをスタートしております。米沢に多くの人に訪れていただき、米沢の皆さんが身近にある地域資源を活かしていけるように取り組んでいきたいと思っております。究極の目的であり、地域においては何よりも人材の育成が重要だと思っておりますので1年間しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

2点目は、「市立病院の病院長の安否が気遣われます。三友堂病院との協議や1年後の開院へ向けて影響はないですか。今後の対応についてお聞きします。」という内容です。

病院長の行方が分からなくなってから、栃木県警で捜索に当たっていましたが、降雪もあり打ち切りになりました。その後は民間の捜索も続けられていましたが、この雪で現在は停止しています。雪解けを待って、また捜索を開始するという状況だと報告をいただきました。病院長がこのような状況にあることを非常に心配しています。また、病院長が中心に進めてきた新病院開設に向けた準備に影響が出ないようにしなければならぬと思っています。建設は間違いなく進んでいるので大丈夫ですが、三友堂病院との細部に渡る調整も必要になってきます。現在、(仮称)地域医療連携推進法人よねざわヘルスケアネットの立ち上げに向けて取り組んでいます。その中で非常に心配されたのは、新しい病院の開設により、両病院の連携、医師・看護師の連携、事務的な分野の連携、また新たな医師の確保が必要になってきます。これまで病院長が一番権限を持って当たられてきましたので、影響が出ないように病院事業管理者あるいは事務方も含めて、私もしっかりと対応していかなければならぬと思っています。

今後の対応については、病院長がいた時と同じように支障がないように努めていきます。組織体制のこともありますので、新たな病院長も選出し、進めていかなければならぬと思っています。

3点目は、「ウクライナからの避難民受け入れについて、前回会見の動きなど現状をお聞きします。」という内容です。

この件については、23日(金)にすでに投げ込みをさせていただきましたが、今日までの経過を若干説明します。12日(月)に治療と検査のため医療機関へ入院をしました。19日(月)に退院し、以降は月2回通院加療を行う予定です。入院前にマレンコヴさんとお会いすることも可能だったと思いますが、医療難民ということで残念ながら入院が先になってしまいました。12月28日(水)10時から面会を予定しており、記者の皆さんにも取材をしていただくことを考えています。まだお会いしていませんので、退院して通院加療になり体調がどの程度なのか把握はしていませんが、面会の日に色々な話をしたいと思っております。

○記者

1点目について伺います。改めて、次期市長選に対する市長の立場をお聞かせください。

○市長

その件については、いずれ方向性が出ると思います。

○記者

ご自身の出馬についての現時点でのお考えをお聞かせください。

○市長

現時点では任期1年を全うするとしか言えません。出馬する、しないということを言明するのは時期尚早だと思います。

○記者

ここ数日色々な集会で現職参与を紹介したり、支援を求めたりしています。現在、近藤さん、伊藤さんの2人が立候補しています。現状について市長としてどうお考えですか。

○市長

11月の記者会見時はまだ名前が出ていませんでしたが、ようやく2人の名前が出てきて、これから3人目が出てくるかもしれません。次の米沢をどうしていくかということについての争点が出てきて、市民の選択ができると思います。

○記者

伊藤参与の記者会見の中で現市政の問題点として、非常に魅力があるのに情報発信力が弱いということを課題として挙げていました。市長はどのようにお考えですか。

○市長

私も常々庁議でも話しております。本市は、地域資源として良いものをたくさん持っていますが、それを正確に情報発信できてきたのかということ、まだまだ改善の余地があります。その点については、私も同じ考えです。

○記者

まだ1年ありますが、市長としてこのように情報発信していきたいというお考えがあればお聞かせください。

○市長

様々な媒体を使って、本日新たに出てきたブランドムービーやふるさと納税などもそうですが、いかに磨き上げながらどのように情報を出していくかということについて、様々な分野を通しながら進めていく必要があると思います。

例えば紅花の世界農業遺産についても、どのような発信をしていけば効果が出るのか、そのために今準備としてできることが何かを総合的に考えて、一つのストーリーを作りながら進めていきたいと思っています。できれば全ての地域資源においても、ストーリー性を持った情報発信をしていきたいと思っています。

○記者

どこの部署で、どのような形でやりますか。

○市長

現在それぞれの部署で様々な取り組みを行っていますので、まとめていくのに新たに必要となれば構成していきます。現在紅花については地域振興課で取り組んでいますが、今後検討していきます。目的が明確になっていけば、それぞれの分野で発信していてもよいと思います。

○記者

市長の発言について何点か伺います。3期目にご自身が出馬するかしないかをはっきりと語るのは時期尚早だということですか。

○市長

いずれにしても、やるということはないとは思いますが、やめるということは何らかの影響が出てくると思います。任期1年残されているのでしっかりと取り組んでいくということです。

○記者

任期残り1年ある中でやめるという発言をするのはまだ早いということでしょうか。

○市長

まだ早いと思っています。

○記者

会合で市長が登壇して、ご自身が伊藤さんを支援しますという言い方ではなく、支援を呼び掛けるような発言がありましたが、どのようなスタンスなのかお聞かせください。

○市長

2人が出揃い今後どうなるかは分かりません。ただ伊藤さんは本市のSDGs推進参与としてお手伝いいただいている以上は、このように頑張っているのだから皆さんご支援くださいというニュアンスの発言をさせていただきました。それ以上でもそれ以下でもありません。

○記者

2期8年という条例を自ら提案し制定されたのに、明言を避けるのはなぜですか。

○市長

条例通り2期8年です。それをどう解釈していただいても結構です。

○記者

伊藤さんが参与のポストについて年内で辞職したいと会見でおっしゃっていましたが、任命権者としてどのようにお考えですか。

○市長

伊藤さんがそのように申しているのだから、了承して12月いっぱいまでとさせていただきます。

○記者

日付としてはいつまでですか。

○市長

12月31日(土)までになると思います。

○記者

広報よねざわ12月1日号のSDGsの特集を見た複数の方が、伊藤参与の紹介が保存版となっていることに対して、編集した時点で本人にその気があったならば市として違ったメッセージを出しているのではないかという意見が出るかと思いますが、いかがですか。

○市長

まだ読んでいないので内容は把握していませんが、編集した時点ではまだ表明をしていなかったということで、SDGs推進参与として掲載されたものだと思います。

○記者

2点目について伺います。先ほど後任の病院長について発言がありました。現時点では、どのようなタイミングで選出するのですか。

○市長

病院の経営全般を司る病院長が不在ということは、病院運営にとって好ましくないことです。大串院長については大変残念ですが、新病院の開設に向けて、またコロナ対策の指揮をとっていく病院長の役割は重要になってくると思いますので、新たな病院長を選出せざるを得ないと思います。

○記者

人選は決まっていますか。

○市長

人選は病院内部で詰めているようです。ほぼ確定しているようですが、現時点で名前を発表するところまではきていません。副院長は何名かおられますので、副院長を中心に取りまとめを行っていると聞いています。

○記者

新病院への思いも色々あるかと思いますが、ぜひ決まった時は市長と一緒に記者会見をしていただきたいと思います。

○市長

その時は、記者の皆さんがどう考えるかによって対応したいと思います。

○記者

新たな病院長の選出の時期はいつ頃を目処にしていますか。

○市長

まだはっきりと決まっておりませんので、喫緊の内には皆さんに発表していただくように病院側の事務局には伝えておきます。

○記者

栃木県警とのやり取りは病院側が行っていたのですか。

○市長

場所が栃木県の日光市ということで、搜索願いを出した場合、栃木県警が搜索に当たるとということで、栃木県警が動かれたと思います。搜索が打ち切られた段階で、米

沢警察署の署長と話しました。栃木県警としては捜索を断念しましたが、何かあればご連絡しますとのことでした。その後、大串院長のご家族が民間の捜索をお願いしたと思われま

○記者

最後に3点目について伺います。詳しくは明後日伺いますが、可能であれば入院された病院名をお聞かせください。

○秘書広報課長

明後日の取材の段階でお知らせしたいと思います。

○記者

市役所で連絡を取り合っているのは、現在も秘書広報課長ですか。

○市長

秘書広報課長を中心に連絡を取っています。

○記者

その後、新たに二人目、三人目という話がありますか。

○市長

山形大学への留学生のような形での話はあるようです。オレグ・ディミトリエフ氏58歳で、ウクライナ国立学士院半導体物理研究所の研究員の方です。外国人研究者を招聘する日本学術振興会の事業で、山形大学工学部で受け入れ、電気エネルギーへの変換効率の低い赤外線太陽光発電で有効活用するという研究を行う予定だと報告をいただいています。この方は避難民ではありません。

○記者

現在、ウクライナの方が3名米沢にいますが、市として交流の場を設けたりはしますか。

○市長

ウクライナ情勢を見聞きすると、すぐに侵略が終わる状況ではないようです。ますます酷くなることも想定された場合に、マレンコフさんのルートの中で避難民が増える可能性はあると思います。現在、首都キエフがどのような攻撃を受けているかが大きな課題になっています。一番大きな町の方が避難せざるを得ないとなった場合に、日本への避難民も多くなってくると思います。本市にどのようなルートを通して来られるかは未知数ですが、可能性としてはあると思いますので、何らかの対応はとっていきたいと思います。

○記者

その他について伺います。昨年が大雪で色々ありました。市民からの要望等も寄せられているということは会見でもお聞きしました。それを踏まえ何か大きく変えること、また除雪や雪対策でやっていくことはありますか。

○市長

特別変更することはないと思います。しかしながら、高齢化社会が進む中で普通除雪を行っていますが、本市ならではの押雪軽減制度も活用しながら、なかなか雪片付

けができない高齢者の皆さんについては対応しているところです。押雪軽減制度を活用していても大変だという世帯もありますので、除雪計画の中では、より丁寧に高齢者対応をしていくようお願いしています。また、行政側の除雪だけでは事が足りる訳ではないので、民間の皆さんのご協力もいただきながら、極力生活に支障のないようにしていきたいと思えます。

昨年は大雪で、様々な面で市民生活にも影響を与えました。今のところ雪は少ないですが、これから間違いなく多くなってきます。市民の方からご要望も出てくると思えますので、しっかりと除雪対策に取り組んでいきます。

○記者

市長にとって、今年2022年はどのような年でしたか。

○市長

今年もまたコロナに振り回された一年だったと言えらると思えます。その中でも、建設するものは建設しましたし、新たに本市の魅力をどのように発信していくか、若い世代が様々な面で取り組みを始めてきました。大変な状況の中でも、新たな光が見えてきた年だと思えます。

○記者

来年2023年はどのような年になってほしいですか。

○市長

コロナウイルスが、インフルエンザウイルスと同様に、感染には注意する必要はあるものの、普段はコロナウイルスを意識せずに生活できるような環境になってほしいというのが一番です。そのことにより、地域・社会の経済活動も変わってくると思えます。まだ地域・社会の経済が上手く動いていないのは、コロナに対する心配、感染の影響があり、市民の皆さんの心が解放されていないからだと思えます。それを早くなくしたい、この一言に尽きます。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度12月の定例記者会見を終了いたします。